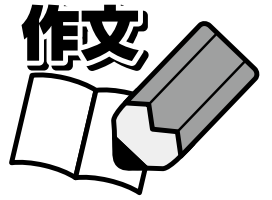


全国コンクール 優秀賞

群馬県コンクール 金賞



## お母さんとのり弁を作ったよ

千代田町立東小学校 3年 大竹 柚衣香

「お母さん、今日のお弁当はなあに？」

夏休みになると、私は学童へ行く。お昼は、たくさんのご飯が入っているお弁当だ。

「今日は、柚衣香の好きなのり弁だよ。」

私は、お弁当の中でのり弁が好き。お母さんが作るのり弁は、お店で売っているのと少しちがっていておもしろいからだ。

お母さんが作るのり弁は、二だんになっている。まずご飯を入れて、その上に具をのせるのだが、具がその日によってちがう。ちりめんの日もあれば、こんぶの日もある。毎回ちがうので、口に入れるまで分からない。今日のうらないみたい。その上にのりをしいて、下のだんの完成。その上にご飯をのせて、かつお節としょうゆで味付けをして、のりをのせる。上のだんの完成。

私の家のお米は、今は親せきから買っているが、昔は、ひいじいちゃんを作っていた。ひいじいちゃんは、毎日軽トラックに乗って全部の田んぼのお米の様子を見に回っていたそうだ。

「米という字を分解すると、八と十と八でしょ。今は、機械でできることも増えたけど、昔は、お米を作るのに八十八もの手間をかけていたんだよ。」

と、お母さんが教えてくれた。米作りって大変な仕事だな。これからも残さず食べよう。

この間、お母さんと一緒にのり弁を作った。お父さんはお肉が好きなので、そぼろ。お兄ちゃんは白いご飯が好きなので、お塩。お母さんと私は、ちりめんにした。「家族みんながよろこんで食べてくれるといいな。」と、思いながら作った。お母さんも毎日こんなふうに考えながら作ってくれているのかな。その日の夜、空っぽになったみんなのお弁当箱を見て、とてもうれしかった。これからも、私はたくさんのお手間と優しさがつまったご飯をおいしく食べていきたいな。